



発行：研究・イノベーション推進機構
<https://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/>

研究をおもしろくわかりやすく
 研究に新しい風を吹かせよう！

今号のテーマ

夏の特別企画、第1弾：質問にお答えします！



前期の授業も終わりましたね。ほっと一息つきたいところですが、科研費の申請を控えている先生方は、もうひとがんばり、お願いします。不安定な世の中ではありますが、一直線に出口に向かうことが出来なくても、今、自分達ができることをしていきましょう！

さて、研究・イノベーション推進機構では、5月に「研究環境に関するアンケート」を実施しました。自由記述の欄にもたくさんのご意見をいただいております。全ての質問にお答えできるわけではありませんが、ご意見の多かったものをいくつかピックアップして、今号と次号の2回に分けてお答えします。

研究機器について

Q 新規購入の補助もありがたいが、需要度や汎用性が高い機器のメンテナンス及び更新にも投資してほしい。

A ご意見、ありがとうございます。「[設備共用化推進経費支援事業](#)」という学内事業が利用できます。これは、既存研究用設備のリユース・アップグレードを支援するものです。また、新規購入に関する支援事業「[共用研究設備整備支援事業](#)」もご活用ください。こちらは複数の研究者による研究設備の共同購入費を支援します。名前が似ていて、わかりづらいですね…。自戒も込めて、改善していきたいと思えます。



情報提供について

Q 本学の助成制度等に関する情報に到達しやすくなるツールを導入していただきたいです。

A 必要としている人に情報が届けることが、一番大切なことですが、届いていないのが現状です。現在、研究・イノベーション推進機構のホームページの内容を見直し、複雑化する情報の交通整理を行う準備を進めています。当面は、「[弘前大学研究者支援制度](#)」のページで、各種事業の確認が出来ますので、ご利用ください。



研究助成について

Q 研究助成については、異分野連携が主となっており、単分野の研究での助成が受けにくい印象です。

A こちらについては、研究担当の若林理事にインタビューしてみましょう！

☆ 若林『異分野連携は新たな研究分野の創出という点で重要だと考えています。さらに、イノベーションの創出には異分野連携が力を発揮します。例えば、全世界で普及しているiPhoneの中には新たな技術は使われていませんが、既存の技術が巧みに組み合わせられています。一方、単分野の研究(とんがり研究)にも研究助成を広げてゆきます。コロナが一段落すれば、分野を異にする研究者がビールを飲みながら研究のことをざっくばらんに語り合える機会を作りたいと思っています。「研究交流カフェ」を活発化させたいですね。』



ミニコラム

若林理事の夏の思い出

今は冷暖房が完備している研究室が多いと思いますが、私が若い頃は夏は暑さとの戦いでした。私がかつて所属していた研究室には20名ほどの研究者がいましたが、なぜか8月になると電顕を始める者が多かったのです。

その理由は次第に明らかになりました。電顕室は冷房が完備され、暗くて密閉されているからです。つまり、電顕室の中では冷房が効いた状態で、好きな音楽や高校野球も聴けるのです。さらに言えば、昼寝をしてもわかりません。

ただし、電顕室の使用は予約制(年功序列)でしたから、私に番が回ってくるのは夏も終わりの頃でした……

